特集1 「地方財政と環境・文化」セッション

○**川瀬**　皆さまこんにちは．私はこのセッションの座長を仰せつかりました，京都府立大学公共政策学部の川瀬と申します．

今日の数あるセッションの中で，財政というタイトルが付いているのはこのセッションだけでございます．皆さん，ご承知かと思うのですけれども，本日配布されました『経済論叢』の植田先生の経歴によりますと，1984 年に京都大学経済学部に赴任となっております．

当時は環境に関連する講義は，後ほどメッセージをいただく宮本憲一先生が集中講義などで担っておられたと思うのですけれども，専任教員を雇うことができる講座はありませんでした．それで，池上惇先生がスカウトされて，財政学講座の助教授として赴任されたわけであります．

その当時私は博士後期課程の 2 回生でした．したがって，植田先生が直接指導した大学院生の中では一番古株ということになると思います．その 1 年ぐらい前から，大学院生の中では島恭彦先生が退職されて 10 年ぐらい，池上先生も教授になられてかなり年数もたつので，助教授としてどなたが赴任されるのだろうかと，いろいろ噂しておりました．

1983 年のある日に突然，経済研究所の植田さんという人が赴任されるという話を聞いたときは，本当に驚愕といいますか，戸惑ったことをよく覚えております．

そこに池上先生がいらっしゃるのでとても言いにくいのですけれども．よく覚えていますのは，1983 年末の研究室の忘年会の際，何となくまだ戸惑いを隠せないでいる私どもを前にして池上先生が，なぜこの人が財政学の講座として必要な人かということを，こんこんとおっしゃられたことです．

それでもまだ頭の固い私には，よく理解できませんでした．ですから私も，この人はどういう人かなと様子見だったのですけれども，先ほどからたびた

び紹介されている，『廃棄物とリサイクルの経済学』という本を拝読させていただいて，この人はちゃんと経済学も財政学もできる人だなということがよく分かりました．

その後の植田先生の，先ほどからご紹介された素晴らしい業績を見るにつけ，今日は植田先生の記念会なのですが，植田先生を財政学の助教授として採用された池上先生の先見の明に改めて敬意を表したいと思う次第です．

前座の話はこれぐらいと致しまして，このセッションは北海学園大学の西村さん．それから京都府立大学の川勝さん．それから摂南大学の後藤先生の３人の報告で始めることとします．

まず最初に，北海学園大学の西村さんの報告です．西村さんは，皆さんご承知かと思うのですが，ある意味この国の地方財政，地域経済の先行きを占う上で，とても大事な事例と言っていい夕張市の研究を初めとして，地方財政，地域経済の分野で大変優れた研究をしている方です．では，よろしくお願いします．

川瀬光義（京都府立大学）